

県内産ホンダヌキ 2 例の胃内容物

山 口 佳 秀

A short note on the Japanese Raccoon Dogs (*Nyctereutes procyonides viverrinus*) with Stomach contents.

Yoshihide YAMAGUCHI

Résumé

1. Identified items in the Stomach of two specimen were as follows: frog (1 sp., 1 fam.), insects (7 spp., 6 fam.), plants (6 spp., 6 fam.), mashroom (1 sp., 1 fam.), also an earthworm and putrid meet. The detailed analysis were shown in Table 1.

2. A Japanese Raccoon Dog (*Nyctereutes procyonoides viverrinus*) with abnormal teeth was reported with some anatomical notes. The animal which was collected at Kamakura City, Kanagawa Prefecture, lacks the right lower teeth (I1, I2, I3, C, pm1) and left lower tooth (I1).

1974年10月、神奈川県津久井郡青根、神ノ川林道で拾得したホンダヌキ *Nyctereutes procyonoides viverrinus* TEMMINCK 雌 1 個体と 1975年10月に神奈川県鎌倉市十二所で捕獲されたホンダヌキ雄 1 個体を入手する機会を得たので、その二頭の胃内容物の分析を行なった。*

本文に入る前に、この貴重な標本を当館に寄贈された鎌倉市教育委員会ならびに秋本正樹氏に紙上をかりて厚く御礼申しあげる。

資料1. 神ノ川産

捕獲場所：神奈川県津久井郡青根神ノ川林道

捕獲年月日：1974年10月29日（午後8時頃）

捕獲者：秋本正樹（拾得）

性 別：雌亜成獣

* 分析方法

開腹後、噴門と幽門を麻糸でしばって胃を切除し、50%のアルコールの中に内容物を浸した。その後、少量の内容物をシャーレに取り出して昆虫、植物などの特徴あるものを選出し、さらにビュノキュラで観察しながら細選別し、同定した。

重量計測は種類ごとに室内にて自然乾燥（2～3日）をしたのち測定した。
種類の同定は、植物質については当館高橋秀男主任学芸員に依頼した。また、昆虫、カエルについては当館に保存されている標本と照合し、同定した。

表1 タヌキの胃から検出された内容物

Table 1. Result of indentifications				Locality		KANNOGAWA			KAMAKURA		
	Family name	Scientific name	Japanese name	Parts of the eaten	Dry Wt.	N.	Parts of the eaten	Dry Wt.	N.		
Plant matter	ACTINIDIACEAE	<i>Actinidia arguta</i>	サルナシ	fruit	1.6g	4(個)					
				seed		250					
	ROSACEAE	<i>Chaenomeles japonica</i>	クサボケ	seed	0.1	1	seed	0.4g	12(個)		
	LEGUMINOSAE	<i>Phaseolus radia</i> var. <i>aurea</i>	アズキ				seed	2.3			
	EBENACEAE	<i>Diospyros kaki</i>	カキノキ	seed	0.4	1					
	CYPERACEAE	<i>Carex</i> spp.	スゲ類の一種	leaf	0.1		leaf	0.2			
			落葉広果樹の一種	leaf	0.3						
			ツチグリ		3.8						
			Total	6(種類)	5.8g		3(種類)	2.9g			
	Animal matter	RHACOPHORIDAE	<i>Rhacophorus buergeri</i>	カジカガエル			1(個体)				
STENOPELMATIDAE		<i>Diestrammena japonica</i>	マダラカマドウマ		1.8g		1.5g		1(個体)		
MANTIDAE		<i>Paratenodera angustipennis</i>	カマキリ								
HARPALIDAE			ゴミムシ科の一種			6			4		
FORMICIDAE			アリ科の一種			2					
BIBIONIDAE			ケバエ科の一種			1					
			ミミズの一種			1					
			フ南 羽毛		0.2				2		
		Total	7(種類)	6.5g		4(種類)	2.0g				

外部測定値：全長580.0mm，尾長157.0mm，耳長50.0mm，体重3140 g
頭骨測定値：全長102.0mm，他は破損のため測定省略

歯式： $I \frac{3}{3} \cdot C \frac{1}{1} \cdot P m \frac{3}{4} \cdot M \frac{3}{2} = 40$

死因：右上腕骨骨折及び頭骨の破損状態や皮下出血等から推察して，右側より頭部付近に車輪による衝撃をうけ即死したと考えられる。

胃内容物：植物質はサルナシ *Actinidia arguta* の果皮4個と種子250粒（乾重量1.6 g），クサボケ *Chaenomeles japonica* の種子1粒（0.1 g），カキノキ *Diospyros kaki* の種子1粒（0.4 g），カヤツリグサ科の一種 *Carex* spp. の葉（0.1 g），落葉広葉樹の一種の葉（0.3 g），腹菌類のツチグリ *Astraeus hygrometricus*（3.8 g）の6種類で，植物質全体の重量は5.8 gであった。

動物質は，カエル目のカジカガエル *Rhacophorus buergeri* 1個体，直翅目のマダラカマドウマ *Diestrammena japonica*（1.8 g），鞘翅目のゴミムシ科 *Harpalidae* の一種6個体，双翅目のケバエ科 *Eibonidae* の一種1個体，ミミズの一種1個体の6種と屍肉（貝柱と思われるもの0.2 g）で，動物質全体の重量は6.5 gであった。また，全重量に対する植物質と動物質の割合は，植物質43%に対して動物質57%で，これらは表1に示した。

資料2. 鎌倉産

捕獲場所：神奈川県鎌倉市十二所（鎌倉霊園際）
捕獲年月日：1975年10月15日（午前6時頃）
捕獲者：鎌倉市教育委員会より寄贈を受ける。
性別：雄成獣
外部測定値：全長649.0mm，尾長171.0mm，耳長55.0mm，足（爪なし）102.0mm，
体重4458 g
頭骨測定値：全長111.3mm，頬骨弓幅61.9mm，下顎長83.0mm
歯式：この個体に歯数異状が認められたので記録する。
右下顎骨では，第1・2・3門歯及び犬歯，第1小臼歯が欠失し，第1・2・3門歯部及び犬歯部の歯槽を欠く。第1小臼歯部に三角形の孔がわずかにあいている。骨は4.3mmで左下顎骨6.6mmの約2/3と薄い。Plate 1—4.

左下顎骨では第1門歯及び門歯部の歯槽を欠く。第2門歯及び第3門歯は正常と思われる神ノ川産の個体と比較すると第2門歯が第1門歯側に伸長し、歯隙は1.3mmもあり、磨滅状態は、臼歯の磨滅状態と比較すると非常に進んでいる。

犬歯は臼歯の磨滅状態や上顎犬歯、神ノ川産の個体などの犬歯と比較して異状は認められない。歯槽から突出している長さ11.0mm。

第2小臼歯の歯冠、歯頸には左右に差は認められないが、歯槽から突出している長さは、左3.7mmに対して右5.7mmあり、右下顎第2小臼歯の歯根の伸長がいちじるしい。

Plate 1—3.

第3小臼歯、大臼歯及び上顎歯の形態、大きさ、磨滅度には左右の変化が認められない。

死 因：病死？

胃内容物：植物質はクサボケの種子12粒(0.4g)、アズキ(ゆで小豆と思われるもの) *Phaseolus radia* var. *aurea* の種子(2.3g)、カヤツリグサ科の一種の葉(0.2g)、の3種類で植物質全体の重量は2.9gであった。

動物質は直翅目のマダラカマドウマ(1.5g)、カマキリ目のカマキリ *Paratenodera angustipennis* 1個体、膜翅目のアリ科 Formicidae の一種4個体の3種と羽毛(体羽2枚)で、動物質全体の重量は2.0gであった。また、胃内容物全体の割合は、植物質59%に対して動物質41%であった。これらは表1に示した通りである。

考 察

(i) 同定された内容物のすべてはタヌキが一次的に捕食したのではなく、二次的、副次的に胃内に入ったと思われるものも多い。

例えば、鎌倉産の個体から羽毛が選出されているが、他の内容物の選出状態から推察して鳥を捕食していたとは考えがたく、なにかに付着していた羽毛が副次的にのみこまれたと考えられる。また、神ノ川産の個体より選出されたアリやハエもカジカガエルが捕食したものが二次的に胃内に入り選出されたと思われる。

(ii) 神ノ川産の個体から屍肉や柿などの栽培果実が選出されていると同時に鎌倉産の個体からもアズキが多量に選出されている。これらは二頭とも観光客や登山者の捨てた食物や、あるいは墓地、人家付近で人為的な食物にかなり依存していたことが推察できる。

(iii) 今泉(1949)によるとタヌキの食性は雑食性であるという。

今回調査した個体は2例と非常に少ないが、全内容物の動物質と植物質の含める割合は、神ノ川産の個体では57%：43%、鎌倉産の個体は41%：59%で、二頭ともほぼ同量を食べており、雑食性であった。

(iv) 鎌倉産の個体にみられた歯の欠失は、先天的に欠失したものか、事故による欠失かいまの所明瞭でない。またホンダタヌキのこのような報告は筆者の知るところでは見ていない。

この個体にとって歯の欠失は、この個体の生活にかなりの影響があったと想像される。

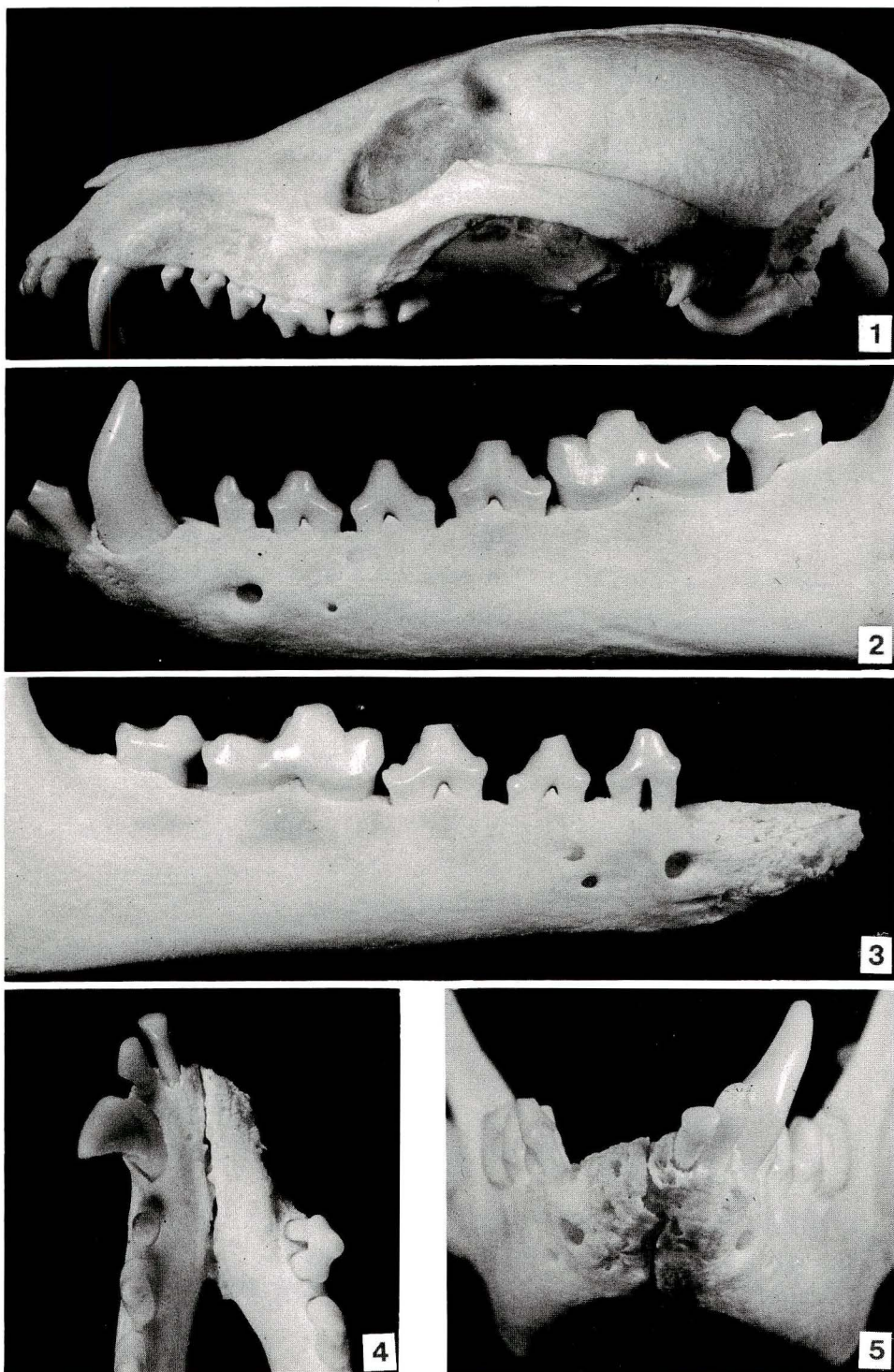
引 用 文 献

今泉吉典, 1949. 分類と生態——日本哺乳動物図説, 洋々書房.

今泉吉典, 1960. 原色日本哺乳類図鑑. 保育社.

小原秀雄, 1972. 続日本野生動物記. 中央公論社.

湯川 仁, 1970. タヌキの「ためぐそ」. 哺乳動物学雑誌, 5:84.



Explanation of Plate 1

Skull of the Japanese Raccoon dog (Collected at Kamakura City)

- | | |
|--|---------------------------------------|
| 1 Lateral aspect of cranium | 2 Ventral aspect of the left mandible |
| 3 Ventral aspect of the right mandible | 4 Dorsal aspect of mandible |
| 5 Anterior aspect of mandible | |